

令和7年度岡山県立真庭高等学校 第3回学校運営協議会（議事録）

1. 日 時 令和8年2月17日（火）14：30～16：00
2. 場 所 会議室
3. 概 要

開会

- (1) 校長挨拶
 - ・学校からの報告
 - 教育活動報告（11月～2月）
- (2) 会長挨拶

協議

- (1) 学校自己評価アンケート集計結果・分析について
 - 藤井教頭より、資料10ページの集計結果について説明。肯定的回答が8割を下回っているところに色を付け、7割を下回っているところには、さらに濃い色を付けてわかりやすくしている。
 - ・10ページ下のレーダーチャート＝生徒・保護者・教職員の回答を比較
令和5年度との比較をしても、今年度は相違が少なくなっている。
 - ・11ページ以降＝項目ごとの過年度との比較推移グラフ
生徒はどの項目も過去より改善されてきている。12ページQ16の今一番力を入れている地域と連携した教育活動も年々改善を続けており、98%の生徒が肯定的な回答をしている。Q17は今年度よりスタートした取り組みとなっている。13ページからは教職員お回答となり、まだまだという思いが強い厳しい評価となっている。Q4は、学習環境が落ち着いているかの項目で、昨年度は低下したが今年度は回復している。今後も推移を見ていくべき項目である。Q11Q12は、低い数値で課題である。部活動についても年々回復しているが、さらに検討をしていく必要がある。14ページQ16Q18は教職員で100%となっているが、生徒ではそこまで達していないので検討の必要がある。15ページQ30は令和4年5年と比べても大きく改善している。生徒保護者においても、9割を超えている。全体を通して評価は向上しており、学校全体は良い方向に向かっている。地域連携、国際交流、情報発信、体験的学び等は良い評価がかえってきているので、今後も継続して力を入れていきたい、一方で生活面の指導や部活動のところで課題があるので今後の教育活動でしっかりと取り組んでいきたい。
 - 平澤委員より：情報発信の項目で教職員が100%、生徒保護者はそうでない。ここに課題が見える。学校はやっているが、まわりには届いていない。誰にどう届けるかという観点を改善していくことが必要である。来年度以降は、どう伝えていくのか検討していただきたい。
 - (2) 令和7年度具体的な学校経営目標・計画（最終評価）について
 - 大場主幹教諭より、資料6～7ページを説明。

・専攻科の最終評価Cは、国家試験に向けた模試の結果が目標に達していないため。ただ、本日の自己採点の結果は全員まずまずだったと聞いている。国家試験の結果が出ていないので、現時点では模試の結果からCとしている。本校の目標である、地域での活動や学習、生徒が主体的に取り組むなどの項目は、各分掌とも目標を達成できているとして13項目中8項目がA評価となっている。最終評価案については、今回の協議会で委員のみなさんから意見をいただき最終評価をしていただきたいと依頼。

○杉会長より：専攻科のC項目について、もう少し説明をしてもらいたい。

○中川看護科長より説明

今年度の専攻科2年生は、国家試験に対する意識向上に少し時間がかかり、模試の結果が例年より低かったため評価Cとしている。最終的には、今日の自己採点で目標ラインは全員超えているという報告を受けている。

○杉会長より：今の話を聞いて評価Bでもよいのではと思った。

○竹崎委員より：国家試験を考えた模試の結果だけを見ると数値化されるので、評価Cになるかもしれないが、その後の学生の意欲の向上を見ると、成長が見られたとして評価Bでもよいのではないかと思う。

○杉会長より：意見を総合して評価Bとする。

○浅野秀委員より：100%の評価については、当然Aとなるので、来年度以降達成目標の数値をあげていけばよいと助言。

○杉会長より：100%、A評価の項目については来年度評価基準をさらに見直してほしいと助言。

グループ協議

テーマ「各学科・学校全体の魅力発信と教育活動の充実について」

「学校経営の重点目標に向けた学校運営・教育環境の改善について」

○3つのグループに分かれて、委員と教員が協議。

Aグループ

出席者：(委員) 松原、浅野晃、長尾、竹内、(事務局) 藤島、福島、佐古

① 真庭高校の壁について

・看護科の頑張りを地元に向けて発信を場が少ない。

② 学校全体の魅力について

・生徒自身が授業での取り組みを動画にして掲載する。

Bグループ

出席者：(委員) 杉、浅野秀、平澤、(替) 大場 (事務局) 大橋、若田

① 学校全体の魅力発信について

・世代にあわせてアピールをする。若い世代はSNSで、年配の世代は折込チラシの方が見られる。両世代ともQRコードは使える。看護科のアピールが必要である。

② 教育活動の充実について

- ・資料 18～19 ページの学校の活動が多すぎる。もう、活動を増やすよりは、各科ごとに柱を決め、行事等の精選を行う時期にきている。

Cグループ

出席者：(委員) 竹崎、道満、片岡、(事務局) 藤田、中川、川嶋

① 学校全体の魅力発信について

- ・魅力を発信するためには、SNSとリアルが大切である。SNSは、高校生がインフルエンサーになって発信するのがよい。大人が作った情報と生徒が作った情報は鮮度が違う。ターゲットを中学生や小学生にするなら、生徒が生徒に向かって情報を発信するのがよい。その場合、セキュリティの問題等リスクがあるから、教員が近い距離にいてチェック体制を整える。アイデアは学生から求め、楽しそうということが伝わるのがよい。楽しそうだけで終わるのではなく、リアルな体験をするのがよい。本校でのジョブフェアでは、本校の卒業生が高校生に説明をしており、よく伝達されていた。この地域だからできるという環境を大事にして学習環境を整え、そこに行けば何か楽しいことができる。その楽しいを高校生が実際に発信すると、アクションにつながりやすい。

まとめ

- ・各グループより協議内容を発表。

連絡事項

- ・今回の議事録送付とHPへの掲載

閉会

- (1) 副会長挨拶